

2023年度環境経営レポート

(2023年3月1日～2024年2月28日)

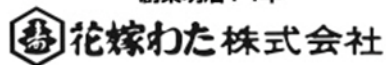
発行：2024年3月1日

花嫁わた株式会社

東京都荒川区東日暮里6-49-48

TEL 03-3803-3311 FAX 03-3891-3167

創業明治14年



Contents

1) 組織の概要(事業所名、所在地、事業の概要、事業規模など)	P3
2) 対象範囲(認証、登録範囲)、レポートの対象期間及び発行日	P4
3) 環境経営方針	P5
4) 環境経営目標	P6-7
5) 環境経営活動計画	P8
6) 環境経営目標の達成状況	P9-10
7) 環境経営活動計画の取り組み内容とその評価	P11
8) 次年度の強化すべき取組内容	P12
9) 環境関連法規等取りまとめ	P13
10) 環境負荷と経済価値のバランスから環境経営を評価	P14
11) 代表者による全体評価と見直し、環境活動計画の総括 ..	P15
12) 運用組織図	P16

1) 組織の概要



■事業所名

花嫁わた株式会社

代表取締役社長 吉村 祐介

環境管理責任者 山口 美真

■所在地

〒116-0014 東京都荒川区東日暮里6-49-18

TEL：03-3803-3311 FAX：03-3891-3167

■事業概要・規模

資本金： 1000万円

設 立： 平成2年5月14日

創 業： 明治14年

社員数： 23名

事業活動：布団打ち直し

取引業態：①打ち直し／わた布団・羽毛布団
②丸洗い／布団一般

床面積： 181㎡

■事業活動内容

創業明治14年の伝統と実績を誇る花嫁わた株式会社は、先代・吉村武夫のわた製造・販売において、その実績・品質の良さとともに、お客様の信頼を戴いておりました。消費者意識の変化、時代の変遷とともに、21世紀を迎えても布団のニーズ、変化、動向を捉え、対応できるように平成2年に吉村信一郎を代表者に迎え、

新生・花嫁わた株式会社として出発いたしました。吉村信一郎は社長として限りある資源のリサイクルをいち早く考え、素材を有効に生かして、布団をリフレッシュする「リフォーム」を環境経営の主力業務として取り組み、現在に至っております。この取り組みは、環境問題をはじめとする時代のニーズにマッチした日本古来の知恵。その知恵に当社独自の工法を加え、持続可能な社会の構築に向けて、20世紀型の大量生産／大量消費からの転換を促すべく、「リデュース（発生抑制）」「リユース（再使用）」を指向しています。布団の粗大ゴミを出さないという環境負荷低減活動に資する新たな21世紀型ビジネスモデルとして「布団リフォーム」の啓蒙活動に取り組んでおります。



【第3代 吉村武夫と世界の弓打ち】



その事業は、2009年4月に新・社長となった吉村祐介に受け継がれ、さらに環境貢献ビジネスの拡大をめざしております。

2) 対象範囲、レポートの対象期間及び発行日



■ 認証・登録番号： 0000118

■ 認証・登録事業者： 花嫁わた株式会社
東京荒川区東日暮里 6 - 4 9 - 1 8

■ 認証・登録の対象活動範囲： 全社、全組織

■ 関連事業所： なし

■ レポート対象期間及び発行日

ー 対象期間：2023年3月1日から2024年2月28日まで

ー 発行日：2024年3月1日



3) 環境経営方針



■基本理念

布団は、従来耐久消費財として使われておりましたが、時代の変遷とともに大量生産／大量消費／大量廃棄型の多様な生活様式に変わり、「布団の使い捨て」による環境負荷の一因にもなっています。

当社では「捨てるから生かす」を経営理念とし、布団の「リフォーム」による資源の消費が環境負荷低減に貢献し、また、お客様一人ひとりの取組みが二酸化炭素の排出抑制に多大な貢献をしていることが実証されています。

花嫁わた株式会社は、人間と環境との関わり自体を根本的に見直すという課題を認識し環境経営を最重点課題と位置づけ、事業活動の全領域で環境保全に配慮して行動することにより「持続可能な社会」に向けて、環境活動に取り組んでまいります。

■行動指針

当社の全ての事業活動が環境に何らかの影響を与えていることを認識し、お客様とともに環境に配慮しつつ実績を拡大させるという環境経営を意識したうえで、お客様のニーズに合う「睡眠環境」を提案し、安心と安全の保全のため、社員が全力を傾注し取り組んでいきます。

そのために以下の環境保全活動を推進します。

- ①布団リフォームの事業を拡大することで廃棄した場合に発生する二酸化炭素を削減します。
- ②事業活動の全領域で、省エネ、省資源、資源循環の実現を推進します。
- ③環境関連法規を遵守し、環境負荷の低減を推進します。
- ④当社が参加した業界の協定等の環境保全に関する取り決めを実行します。
- ⑤環境保全を未然に防止するとともに、環境経営システムの環境保全実績が継続的に改善できるように推進します。
- ⑥次の事項を重点的な課題として、全社員が参画し、目標を設定し、目標管理活動を行います。
 - ・二酸化炭素の排出抑制のために電力消費量の抑制を行います。
 - ・化石燃料の削減と大気汚染抑制のためにエコドライブの実践を致します。
 - ・廃棄物の分別管理と発生抑制、分別収集に関する業務を推進します。
 - ・水使用量の抑制に努めます。
 - ・環境教育、訓練、環境保全に関する社内コミュニケーション活動により全社員による会議において、環境方針の周知徹底を図り、環境保全意識の高揚に努めます。

この環境方針は、社外の人にも公開します。

4) 環境経営目標①



布団打ち直し事業拡大によるCO2削減

大項目	項目		単位	2021年度を 基準値とする	2023年度目標	2024年度目標	2025年度目標	2026年度目標
布団処分時の発生 CO2抑制量	わた布団打ち直し	達成率	%		プラス 2 %	プラス 3 %	プラス 4 %	プラス 5 %
	※1枚 6.76kgとして	数値	枚数	16,024				
	※CO2排出係数：1.83kg	CO2抑制量	kg-CO ₂	198,229.7				
	羽毛布団リフォーム	達成率	%		プラス 2 %	プラス 3 %	プラス 4 %	プラス 5 %
	※1枚 2.50kgとして	数値	枚数	34,958				
	※CO2排出係数：1.63kg	CO2抑制量	kg-CO ₂	142,453.9				
	布団丸洗い	達成率	%		プラス 2 %	プラス 3 %	プラス 4 %	プラス 5 %
	※1枚6.76kg、わた布団の3割として	数値	枚数	1,245				
	※CO2排出係数：1.83kg	CO2抑制量	kg-CO ₂	4,620.5				
合計CO2抑制量			kg-CO ₂	345,304.0	プラス 2 %	プラス 3 %	プラス 4 %	プラス 5 %

4) 環境経営目標②



事業所の活動による削減

大項目	項目		単位	2021年度を 基準値とする	2023年度目標	2024年度目標	2025年度目標	2026年度目標
CO2発生量の削減	電力使用量の削減	数値	kwh	27,201	マイナス0.2%	マイナス0.3%	マイナス0.4%	マイナス0.5%
	※CO2排出係数： 0kgCO2/kwh							
	CO2排出量	kg-CO ₂		0				
	ガソリン使用量の削減	数値	L	2,237	マイナス0.2%	マイナス0.3%	マイナス0.4%	マイナス0.5%
	※CO2排出係数： 2.322kgCO2/ℓ							
	CO2排出量	kg-CO ₂		5,194				
合計CO2削減量			kg-CO ₂	5,194	マイナス0.2%	マイナス0.3%	マイナス0.4%	マイナス0.5%

大項目	項目	単位	2021年度を 基準値とする	2023年度目標	2024年度目標	2025年度目標	2026年度目標
廃棄物発生量の削減	削減率	%		100%	100%	100%	100%
	※基準値：2021年度 目標発生量	kg	1370	2021年同様	2021年同様	2021年同様	2021年同様
水使用量の削減	削減率	%		100%	100%	100%	100%
	※基準値：2021年度 目標発生量	m3	54	2021年同様	2021年同様	2021年同様	2021年同様
段ボール使用重量の削減	削減率	%		100%	100%	100%	100%
	※基準値：2021年度 目標使用量	kg	35,456	2021年同様	2021年同様	2021年同様	2021年同様

5) 本年度(2023年度)環境経営活動計画



no.	環境活動目標	担当活動計画	活動内容
1	既存取引先へのサービス強化	既存取引先との事業強化	2023年度においては、2020年度から高騰し続けている原材料費や運賃、加工賃などすべてにおいてその値上げは利益圧迫の要因となり、大きく企業利益に影響を与えてしまっている状況だが、全体の価格改定ではなく、一部のサービスメニューの高価設定により一部値上げした状態での展開を積極的に進め、高価メニューへの受注を上げている。さらに、展示会や直接訪問での企画提案、新しい媒体誌での取り組みを行った。
2	顧客データ分析による売上改善対策	新メニュー提案による売上アップ	単価アップのための2枚お得セットや、グレードアップしたメニュー展開で値上げではなく高級ラインナップとしても展開することで一人当たりの売上単価を上げている。さらに、セミオーダータイプのメニューによる付加価値を加え、顧客一人ひとりに合わせた要望にフィットする提案が実現することにより満足度アップのみならず、単価アップ対策につながっている。
3	生産効率化と管理強化	自社工場	ファーブレス体制から自社工場化による品質管理強化と生産体制、利益体制の改善を見込めるために自社工場申請を進めている。
4	エコアクション21基礎活動の維持推進	社内のCO2削減活動 グリーン購入推進	社内紙ゴミの軽減と電力・水・ガソリン、廃棄物の削減はもちろん、書類のデータ保存による紙ゴミの軽減など継続実施を目指す。また5Sの取り組みを再強化した。

6) 本年度（2023年度）環境経営目標の達成状況①



布団打ち直し事業拡大によるCO2削減

大項目	項目		単位	2023年度目標	2023年度実績
布団処分時の発生 CO2抑制量	わた布団打ち直し	達成率	%	102%	35.10%
	※1枚 6.76kgとして	数値	枚数	16,344	5,737
	※CO2排出係数：1.83kgCO2	CO2抑制量	kg-CO ₂	202,194.3	70,971.3
2021年度実績を基 準値とする	羽毛布団リフォーム	達成率	%	102%	57.56%
	※1枚 2.50kgとして	数値	枚数	35,657	20,526
	※CO2排出係数：1.63kgCO2	CO2抑制量	kg-CO ₂	145,302.9	83,643.5
	布団丸洗い	達成率	%	102%	127.33%
	※1枚6.76kgとして、わた布団の3割として	数値	枚数	1,270	1,617
	※CO2排出係数：1.83kgCO2	CO2抑制量	kg-CO ₂	4,712.9	6,001.1
合計CO2抑制量			kg-CO ₂	352,210.1	160,615.8

6) 本年度（2023年度） 環境経営目標の達成状況②



事業所の活動による削減

大項目	項目		単位	2023年度目標	2023年度実績
CO2発生量の削減	電力使用量の削減	削減	%	99.8%	99.13%
	※CO2排出係数：	数値	kwh	27,147	26,965
2021年度を基準値とする	0kgCO2/kwh	CO2排出量	kg-CO ₂	0	0
	ガソリン使用量の削減	削減	%	99.8%	48.00%
	※CO2排出係数：	数値	L	2,233	1,071.6
	2.322kgCO2/ℓ	CO2排出量	kg-CO ₂	5,184	2,488.3
合計CO2削減量		CO2排出量	kg-CO ₂	5,183.9	2,488.3
大項目		項目	単位	2023年度目標	2023年度実績
廃棄物発生量の削減		削減	%	100%	46.90%
2021年度を基準値とする		発生量	kg	1370	643
水使用量の削減		削減	%	100%	125.93%
2021年度を基準値とする		発生量	m3	54	68
段ボール使用重量の削減		削減	%	100%	37.60%
2021年度を基準値とする		使用量	kg	35,456	13,330

7) 本年度(2023年度)環境経営活動計画の取組結果とその評価



no.	環境活動目標	担当活動計画	活動内容	評価	コメント
1	既存取引先へのサービス強化	既存取引先との事業強化	2023年度においては、2020年度から高騰し続けている原材料費や運賃、加工賃などすべてにおいてその値上げは利益圧迫の要因となり、大きく企業利益に影響を与えてしまっている状況だが、全体の価格改定ではなく、一部のサービスメニューの高価設定により一部値上げした状態での展開を積極的に進め、高価メニューへの受注を上げている。さらに、展示会や直接訪問での企画提案、新しい媒体誌での取り組みを行った。	△	世界・国内経済低迷や値上げラッシュ現象により家計を圧迫し、サービスや布団などの必須品ではないモノへの消費行動が減り、売上達成が実現できていない状態。
2	顧客データ分析による売上改善対策	新メニュー提案による売上アップ	単価アップのための2枚お得セットや、グレードアップしたメニュー展開で値上げではなく高級ラインナップとしても展開することで一人当たりの売上単価を上げている。さらに、セミオーダータイプのメニューによる付加価値を加え、顧客一人ひとりに合わせた要望にフィットする提案が実現することにより満足度アップのみならず、単価アップ対策につながっている。	○	単価アップと粗利の改善につながったが、取引先の全体売上が低調のため、予算達成と利益確保ができていない状態
3	生産効率化と管理強化	自社工場	ファブレス体制から自社工場化による品質管理強化と生産体制、利益体制の改善を見込めるために自社工場申請を進めている。	●	今後生産体制と品質管理、利益確保での大きな改善が見込める
4	エコアクション21基礎活動の維持推進	社内のCO2削減活動 グリーン購入推進	社内紙ゴミの軽減と電力・水・ガソリン、廃棄物の削減はもちろん、書類のデータ保存による紙ゴミの軽減など継続実施を目指す。また5Sの取り組みを再強化した。	△	全体売上未達成によるCO2削減への貢献が少ない。また古い側生地・回収時の袋などの再利用方法が見つからない状態。

8) 次年度（2024年度）の強化すべき取組内容



no.	環境活動目標	担当活動計画	活動内容
1	新規取引先の開拓	新規開拓による新規顧客の獲得、新サービスの販売、新たな収益源の創出	自社の成長と収益性の向上を図ることと花嫁わたブランドと認知度を高めるための活動によるマーケティング強化と売上アップを目指す。売上アップによる全体のCO2削減目標達成に繋げる。
2	付加価値向上	特別の価値を付け加え、他社との差別化できて顧客にアピール	顧客が抱える課題を分析し、自社の強みを伸ばし、価格を上げ、売上アップに直結させる。加工システムの改善と開発による自動化による最小限の人件費で業務の効率化を進める。自社工場運用による外注費用の削減と加工工程の効率化と改善が見込める。
3	SDGs取り組みとブランドイメージアップ	取り組み内容の状況把握と事業展開	社内のSDGsについての意識と花嫁わたの取り組み内容を明確にしてわかりやすい形で発信できるようにする。SDGsを含めたサステナビリティへの貢献を通じて、花嫁わたブランド価値と企業価値がどうなのかを検証しながら、事業展開を強化する。
4	エコアクション21基礎活動の維持推進	社内のCO2削減活動グリーン購入推進	ガソリン、廃棄物削減について、活動を推進する。



9) 環境関連法規等取りまとめ

遵守評価実施日:2023年3月1日

no.	法規等の名称	適用条項	遵守
1	廃棄物の処理及び清掃に関する法律（廃棄物処理法）	第一節 産業廃棄物の処理（第十一条―第十三条）	◎
2	容器梱包リサイクル法	法第二条	◎
3	荒川区条例	荒川区廃棄物の処理及び再利用に関する規則	◎
4	家電リサイクル法	第六条 特定家電製品廃棄時の処理費用負担(家電リサイクル券の購入)	◎

※業務用エアコンについては、ビルの管理会社の範疇にあり、異常があった場合にはビル管理会社へ知らせます。

違反・訴訟等、環境関連法規等の遵守状況を確認した結果、法律違反及び、訴訟は過去3年間ございませんでした。

近隣住民や周辺企業等の外部からの苦情もありませんでした。

今後も法令・条例等を遵守しながら、事業活動・環境活動に努めて参ります。 以上

10) 環境負荷と経済価値のバランスから環境経営を評価



持続可能な布団リフレッシュサービスの提供を実現するためには、環境に優しく、経営的にも維持できることが求められています。

東京23区だけでも、捨てられる布団は年々増加するばかりです。今では年間100万枚以上が、粗大ごみとして捨てられています。新品1枚の羽毛布団を作るには200~250羽もの水鳥のダウンが必要になる上に、採取したてのダウンには多くの細菌・汚れがついており、除去するために大量の水と洗剤が使われています。粗大ごみとして焼却することで多くのCO2も排出されます。しかし、布団リフォームであれば今ある素材を使用して作り直すため、環境に与える影響は大幅に軽減されます。

そこで今こそ考えていただきたいのが布団リフレッシュサービスです。昔から日本では、布団のわたを打ち直して使い続けるという伝統の技とエコ精神がありました。花嫁わたは明治14年の創業から伝統を受け継ぎつつ、最新の技術を導入し、環境に配慮した新しい時代の布団サービスをお届けすることで地球環境を考えます。本当に良いものを自然なカタチで日常生活に取り入れようという、新しいライフスタイルの提案を実現します。

布団リフレッシュサービスは、粗大ゴミが減ることによる環境貢献のみならず、布団の中身である綿、羽毛、羊毛の資源を持続的に資産として生かすことで、環境負荷軽減と経済性のバランスを両立します。さらに今後の新しい事業展開として「シェアリングサービス」を展望しています。布団リフォームを利用しなくても、ゴミになるはずの布団を買取して更なるゴミ削減と資源の活用、再生羽毛の布団を商品化し販売することでCO2削減に貢献します。また、ライフサイクルアセスメントを用いて環境影響評価を行うことも将来可能になると考えられます。

環境負荷軽減と経済性の両観点から環境影響・利益比が比例するサービスであることを評価できます。

1 1) 代表者による全体評価と見直し 総括



■2023年度の取組み結果の評価

2023年度も前年度に引き続き、目標として事業活動である「布団のリフォーム」の強化を掲げ、全社員が一丸となり取り組んでまいりました。

その結果として昨年のレポートでも掲げた

- ①既存取引先へのサービス強化
- ②顧客データ分析による売上改善対策
- ③生産効率化と管理強化

などを予定通り実施いたしました。

より良質なサービスをお客様へ提供するためには、加工現場となる工場とのコミュニケーションと信頼関係は必須となります。自社工場化により、生産体制・生産体制と品質管理、利益確保での大きな改善が見込んでいます。今後の課題でもある会社の売上アップと発展につながると確信しております。

■環境経営目標「布団事業拡大によるCO2削減」

高騰し続けている原材料費や運賃、加工賃などすべてにおいてその値上げは利益圧迫の要因となり、大きく企業利益に影響を与えてしまっている状況です。また大手布団販売メーカーから販売のみならず、丸洗い、クリーニング店、布団店舗、リネン屋などが布団リフォーム事業への参入が止まらない。布団リフォーム事業の先駆け企業としてその管理システムや仕組み、ルールが現在リフォーム事業のベースになっています。これからは、先駆け企業として激しく変化する世界情勢や消費者ニーズ、生活スタイル、また消費スタイルに合わせて、新しいサービスへの提供ができるよう、今を切り抜く準備と行動、さらなる進化を遂げていく予定です。

既存事業は足元が硬め、それを実現する確かなBCP（事業継続計画）の仕組みの必要性和これからは影響を予見し、先回り対応をすることで、生産への影響を最小限に抑えることができる仕組みをつくるべき、生産の内政化も取り組んでおります。布団業界として、またリフォーム事業としても大きな転換期であり、業績にも影響も出ておりますが、新しいサービスでの提案による今後売上増を見込んでおります。今後は新規取引先開拓の含め、工場拡大により地域の雇用が増えることでSDGsの開発目標に向けて貢献していきたいと思っております。お客様への満足度向上=事業拡大によるCO2削減と環境への配慮のバランスをとりながら事業の拡大に努めます。

■今後の取組の方向性

2024年度の目標として事業活動である「布団リフォーム」のさらなる強化として、具体的に下記を行いたいと考えております。

①既存事業強化新規取引先の開拓とSDGs取り組みの強化

新規開拓による新規顧客の獲得、新サービスの販売、新たな収益源の創出ことと共に、SDGsを含めたサステナビリティへの貢献を通じて、花嫁わたブランド価値と企業価値がどうなのかを検証しながら、事業展開を強化します。

②品質徹底管理

取引先別のお客様声、クレームなどを分析し、それを元に徹底的に原因を明確化し、改善する。改善計画と実施状況を管理し、さらに花嫁わた基準に問題ないか再検討します。

また、工場ごとの作業キャッパや設備の把握と作業生産管理による品質保証と生産性アップや納品された布団についてもお客様の声を反映できる体制にし、花嫁わた品質とブランドの信頼感をアップさせ類組みにすることを目指します。



1 2) 運用組織図



代表取締役	・環境方針の決定 ・環境管理責任者の任命 ・全体の評価及び見直し指示
環境管理責任者	・マネジメントシステムの監視 ・パフォーマンスの監視 ・遵守評価の実施 ・環境関連外部との窓口 ・文書、記録の管理 ・環境計画立案、調整 ・部門への計画推進指示、管理 ・教育訓練の実施管理
部門責任者	・部門における環境計画の立案、遂行管理 ・実施状況の確認、記録管理
部門担当者	・部門の計画の実施 ・自己の役割の認識